

アメリカ図書館整備期における女性図書館員の 役割・位置づけの解明に向けた基礎的研究

Basic research for the elucidation of the roles and position of women librarians
in the United States library of development period

中山 愛理

Manari Nakayama

大妻女子大学短期大学部

Otsuma Women's University Junior College Division

キーワード：女性図書館員，アメリカ公立図書館，図書館員養成

Key words : Female librarian, American public library, Library education

1. 研究目的

アメリカでは、女性図書館員の割合が大きいこともあり、“feminized profession”と表現される。アメリカの図書館界では女性が図書館の労働力として本格的に参入した 1880 年代から男性図書館員と女性図書館員の関係性、女性図書館員の役割や位置づけなどをめぐる議論が始まり、図書館専門職としての女性図書館員に関わる相当の文献が蓄積されてきた。それらの多くは、男性図書館長などの管理職の下で、低い地位と給与で働く女性図書館員というステレオタイプに捉えたものであった。また、正史に位置づけられるような単一図書館の歴史を記した図書には、館長などの管理職でない限り、女性図書館員に関する記述はほとんど見られない。

女性図書館員を「周辺化された存在」としてのみ捉えることへの見直しから、1970 年代以降、指導的な女性図書館員に焦点をあてた研究が取り組まれるようになった。それらの研究は、アメリカで図書館の整備が図られた 1880 年代から 1930 年代を念頭に、図書館の整備が早かったマサチューセッツ州などのアメリカ東部地域やフロンティア開拓に合わせて図書館を整備しようと気運の高まったオレゴン州などのアメリカ西部地域という特定の地域に限定し、注目を浴びた館長などの少数の指導者的な女性図書館員の活動を研究対象として取り上げることを通して、従来の抑圧された女性図書館員を主体性のある女性図書館員として捉えなおすものであった。

しかし、アメリカにおける図書館の整備と発展を

明らかにする研究において、指導的な役割の女性図書館員とともに、貸し出しカウンターで利用者に対応し、児童サービスを担った多くの一般女性図書館員たちの活動は研究対象となつてこなかった（本稿では、館長などの指導的立場になつた女性図書館員を一般女性図書館員と表記する）。専門職を養成する図書館学教育に関する研究の面でも養成学校で、女性の入学者が多かつたことを明らかにした研究は存在する。だが、それぞれの学生が卒業後どのような図書館で就業を図つていったのかはジョアン・E. パセットによるアメリカ西部地域の指導的な女性図書館員に関する研究（1994）や拙者による南部の女性図書館員に関する研究（2012）のなかで、南部の指導的な女性図書館員らを対象としたものを除けば、ほとんど明らかにされていない。

これまでの研究では、図書館員養成施設の少なかった南部の場合、彼女らも含めてアメリカ東部地域の図書館員養成校に入学し教育を受ける傾向が見られ、卒業後南部に戻って、南部の公立図書館長を務めたものがいたことを明らかにしたものの、一般女性図書館員についてはいまだ明らかにすることができていない状況である。

前述の背景やこれまで研究成果を踏まえて、本研究はアメリカにおいて、図書館が整備されていった 19 世紀末から 20 世紀初頭を対象に指導的な立場ではない一般女性図書館員の実態を分析することを目的とした。

2. 研究内容及び方法

前述の目的に沿って、19世紀末から20世紀初頭にアメリカ東部地域の図書館員養成校のなから、ドレクセル・インスティテュート（現：Drexel University）の図書館学校とニューヨーク州図書館学校という私立大学と州の教育機関という、2つの性格が異なる学校を対象に調査を行った。

そこで、南部出身の女性が図書館学校で学んだ後、どのようなキャリアを経たのかをドレクセル大学図書館のアーカイブズ部門とコロンビア大学図書館のアーカイブズ部門で、史料調査や文献調査を行い、入手した記録などに基づき分析を行った。

3. ドレクセル図書館学校

ドレクセル・インスティテュートの図書館学校は、1892年11月に創設され、1914年までで、一旦閉鎖し、1922年再開して現在に至っている。ここでは1892年から1904年までの173名の入学者（特別コースを含めると254名の入学者）をもとに、学生の出身地やキャリア形成についてみていく。

1892年から1904年までの学生の出身地をみると、ドレクセル・インスティテュートの所在するペンシルベニア州が76名、隣接するニュージャージー州16名、ニューヨーク州14名で目立ち、南部出身者は、ジョージア州1名、ケンタッキー州1名、ノースカロライナ州1名、サウスカロライナ州2名、テキサス州1名（男性）、バージニア州1名、ウェストバージニア州1名であった。つまり、入学者に含まれる南部出身者は、4%に過ぎなかった。また、北部地域の話であるが、ウィスコンシン州マディソンやイリノイ州シャンペーンなど、後に図書館学校が設立される地域の出身者も存在した。

このことから、図書館学校の所在する周辺地域の出身者がキャリア形成のために、入学する一方で、図書館学校の整備されていない南部をはじめとする地域から、図書館に関するスキルを学ぶ意識をもつ少数の入学者がいたことが示唆される。

以下で、ドレクセル図書館学校で学んだ南部出身の7名の女性図書館員の経歴を概観したうえで、彼女らのキャリア形成をみていくことにする。

(1) マリー・エステル・ビンフォード

マリー・エステル・ビンフォード (Binford, Marie

Estelle) は、1874年9月16日にジョージア州アトランタ近郊のディケーターで生まれ、同州メイコンで育ち、カナダのトロント長老派教会女子大学を卒業したのち、1903年にドレクセル図書館学校で資格を取得し、南部のジョージア州アトランタにあるカーネギー図書館の開設準備担当者としてアシスタント（1904年5月、6月-9月）や同州ニューマンのカーネギー図書館の開設準備担当者（1904年5月-6月）、同州ワシントンのメアリー・ウィリアム記念図書館の目録担当者（1904年8月）、同州フォーサイスにあるモンロー大学図書館（現：Tift College）の担当者（1904年11月-12月）、私立図書館（1905年1月-3月）、テネシー州チャタヌーガの公立図書館担当者〔1905年5月-11月〕、ジョージア州オルバーニカーネギー図書館担当者（1906年2月-4月）、アラバマ州女子産業学校の担当者（1906年4月-6月）などを経て、バーミングハム公立図書館の第1アシスタント（1912-14年）、ミシガン図書館委員会事務局長（1916年）、1920年からアラバマ州バーミングハムのフィリップ高等学校図書館長を務めた。

(2) ヴァージニア・カーター・キャッスルマン

ヴァージニア・カーター・キャッスルマン (Castleman, Virginia Carter) は、1864年バージニア州ハーンドンで、学校を運営する父のもとに生まれ、そのハーンドンセミナリーを卒業後、メリーランド州ボルチモアで女子教育を行うエッジワース・インスティテュートで学んだ後、1899年ドレクセル図書館学校で資格を取得した。卒業後、ペンシルベニア州大学図書館の目録係（1899年6月-8月）、ワシントンD.C.にある全米通信学校 (National Correspondence institute) の図書館講師（1900年-1904年）、アイダホ州ボイジーにあるセント・マーガレット学校の教師兼図書館長（1903年9月-1904年6月）などを務めた。その後、地元に戻り、人びとに図書館の必要性を説明し、貸し出しを行う図書館ができる種をまいた人物としても知られる。

(3) アーダ・ジェーン・デクス

アーダ・ジェーン・デクス (Decus, Ada Jane) は、1875年サウスカロライナ州ウィリアムストンで生まれ、ウィスロップ大学を卒業後、1902年ドレクセル図書館学校で資格を取り、母校に戻りウィスロップ大学の図書館員となった。

(4) アイナ・フォレスト・ネルソン

アイナ・フォレスト・ネルソン (Nelson, Ina Forrest) は、1866年3月2日ウェストバージニア州で生まれ、フェアモント州立師範学校、ウェストバージニア大学卒業後、ウェストバージニア大学図書館のアシスタント(1901年-1902年)、を経て1903年ドレクセル図書館学校で資格をとり、フィラデルフィアのジェファーソン医科大学図書館の目録係(1903年6月-7月)、ウェストバージニア大学図書館アシスタント(1903年9月-1904年6月)を経て、バージニア州にあるランドルフ・メイコン大学の図書館長、ワシントンD.C.の議会図書館、テキサス州のテキサス女子大学図書館長を務めた。

(5) アニー・フローレンス・ペティ

アニー・フローレンス・ペティ (Petty, Annie Florence) は、1871年8月27日ノースカロライナ州ブッシュ・ヒル・コミュニティ(現:アーチデール)で生まれ、ニューガーデンボーディング学校、ギルフォード大学、グリーンズボロの州師範学校を卒業後、同校の図書館員となり、仕事の傍ら、1899年ドレクセル図書館学校で資格を取得、1902年にはグリーンズボロの公立図書館開設準備者も務めた。1904年には、ノースカロライナ図書館協会の創設メンバーに加わり、会長(1908年-1913年)も務めた。

(6) イオネーン・オラ・スミス

イオネーン・オラ・スミス (Smith, Ora Ioneene) は、1876年5月30日ジョージア州ドーソンで生まれ、サウスカロライナ州ウィンスロップ師範・産業学校を卒業後、ドレクセル図書館学校で資格を取得し、ペンシルベニア大学図書館の目録係(1903年6月-12月)、議会図書館の目録係(1904年-1905年)、アラバマ州タスカルーサにあるアラバマ大学の図書館員(1907年-1913年)やウィスコンシン歴史協会図書館の発注部門主任(1913年-1917年)バーミングハム公立図書館のレファレンス図書館員(1920年-1924年)、技術芸術部門長(1927年-1928年)、読書相談担当者(1929年)を務めた。

(7) ペンブルク・メリー・ワイルド

ペンブルク・メリー・ワイルド (Wilde, Mary

Pembroke) は、ケンタッキー州出身で、カリフォルニア州のパサディナ高等学校を卒業後、ドレクセル図書館学校で資格を取得し、ペンシルベニア州にあるジュニアタ大学図書館のアシスタントやシカゴ公立図書館などで勤務した。

4. ニューヨーク州図書館学校

ニューヨーク州図書館学校は、1887年にコロンビア大学の図書館学校として発足し、1889年ニューヨーク州オルバーニに移転し、ニューヨーク州図書館学校となり、1926年まで継続され、再びコロンビア大学へ移転し、1992年に閉校した。1887年から1926年までの1,079名の入学者をもとに、学生の出身地やキャリア形成についてみていく。

1889年から1904年までの学生390人の出身地をみると、ニューヨーク州やマサチューセッツ州が目立ち、南部出身者は、テネシー州1名とオクラホマ州1名(男性)の2名であった。その後の1908年以降はテキサス州3名、ケンタッキー州6名、テネシー州6名、ノースカロライナ州1名、ウェストバージニア州1名(男性)、ルイジアナ州1名、ミシシッピ州1名、バージニア州2名、オクラホマ州1名(男性)の計24名であった。

つまり、入学者に含まれる南部出身者の割合は、2.2%となり、1904年までに限ると0.5%に過ぎなかった。また、北部地域の話であるが、ウィスコンシン州やイリノイ州など、図書館学校のある地域の出身者も存在した。ニューヨーク州図書館学校で目立つのは、スウェーデン、デンマーク、イングランド、オーストラリア、中国などの諸外国の出身者であり、そのなかでも特にノルウェー出身者が目立ち、多い年になると3名ほどの入学者がみられた。

このことから、図書館学校の所在するニューヨーク州の周辺地域の出身者と諸外国のなかでもノルウェー出身者がキャリア形成のために、入学する一方で、図書館学校の整備の進んでいなかった南部地域からは、図書館に関するスキルを学ぶ意識をもつ少数の入学者がいたことが示唆される。また、ジョージア州出身者がみられないのは、1905年以降、ジョージア州アトランタで図書館学校が開校され、司書養成が始まったことが影響していると考えられる。

以下で、1926年までにニューヨーク州図書館学校で学んだ南部出身の21名の女性図書館員の経歴を概観したうえで、彼女らのキャリア形成をみ

ていくことにする。

(1) メイ・ペイン

メイ・ペイン (Payne, May) は、テネシー州ナッシュビル出身で、1891年にニューヨーク州図書館学校で学ぶ。ナッシュビルのエリオット図書館目録係 (1895年)、テネシー州制 100周年記念万国博覧会女性図書館委員会職員 (1896年-1897年)、テネシー州モンティグールの女性図書室・会議室図書館員 (1896年・1897年の7月-8月)、ナッシュビル大学アシスタント図書館員 (1888年-1903年)、ジョージ・ピーポディ大学図書館目録係 (1913年-1914年) などを務めた。

(2) ルーシー・エラ・ファイ

ルーシー・エラ・ファイ (Fay, Lucy Ella) は、1875年6月25日にルイジアナ州クリントンで生まれ、1895年チューレーン大学ニューカム学部卒業、1901年テキサス大学で修士号取得し、テキサス州デントンの工芸学校で英語主任 (1903年-1906年) を務めたのち、1906年にニューヨーク州図書館学校に入学し、資格取得後、ニューヨーク州立図書館アシスタント (1908年-1909年)、ウェストバージニア大学図書館員 (1909年-1910年)、テネシー大学図書館員 (1910年-1918年、1920年-1923年)、ピッツバーグ図書館学校講師 (1918年-1920年、1925年-1926年)、エモリー大学図書館学校講師 (1925年-1927年)、コロンビア大学図書館学校講師 (1926年-1943年)、アメリカ図書館学校協会会長 (1940年-1941年)、ノースカロライナ大学図書館 (1944年)、テンプル大学図書館 (1944年-1946年)、ドレクセル図書館学校講師 (1950年-1951年) を務めた。この間、1926年にニューヨーク州図書館学校で図書館学修士号を取得した。

(3) キャサリン・アンドリュー・サーシー

キャサリン・アンドリュー・サーシー (Searcy, Katherine Andrews) は、テキサス州ブレナムで生まれ、1906年テキサス大学卒業、1909年ニューヨーク州図書館学校で資格を取得、テキサス大学図書館アシスタント (1908年-1911年)、貸し出し部門主任 (1911年-1913年)、レファレンス図書館員 (1913年-1914年)、イリノイ図書館エクステンション委員会臨時アシスタント (1914年)、インディアナ州ゲーリー公立図書館貸し出し部門主任 (1919年-1920年)、テキサス州ウェーコ公立図書

館長 (1920年)、クリーブランド公立図書館発注部門アシスタント (1923年-1924年)、テキサス大学図書館アシスタント (1924年-1925年)、クリーブランド公立図書館アシスタント (1926年-1927年)、レファレンス部門アシスタント (1927年-1930年)、テキサス大学図書館アシスタント (1936年-1937年)、雑誌図書館員 (1937年-1957年)、テキサス州オースティンのセント・アンドリュー学校の児童図書館員 (1957年) などを務めた。

(4) ポーリン・ミルズ・マッコリー

ポーリン・ミルズ・マッコリー (McCauley, Pauline Mills) は、1882年1月8日ケンタッキー州ルイビルで生まれ、インディアナ大学卒業 (1910年)、ニューヨーク州図書館学校で資格を取得したのち、ピッツバーグのカーネギー図書館ワイリー分館第1アシスタント (1911年-1913年)、テキサス州ウェーコ公立図書館の図書館員 (1913年-1919年)、シアトル公立図書館貸し出し部門副責任者 (1924年-1927年)、イノックプラット図書館アシスタント (1927年-1928年)、一般図書部兼貸し出し部門主任 (1928年-1946年) などを務めた。この間の1927年ジョンホプキンス大学の夏季講座で図書館学の講師も務めた。

(5) ガートルード・マシューズ

ガートルード・マシューズ (Matthews, Gertrude) は、テキサス州ウェーコ出身で、地元のベイラー大学を卒業 (1903年)、ウェーコ公立図書館のアシスタント (1903年-1906年) として勤務、テキサス大学図書館養成コース受講 (1906年) 後、再びウェーコ公立図書館で図書館員として勤務 (1907年-1913年) の傍ら、ニューヨーク州図書館学校で資格を取得 (1912年) する。1913年モティッセル (Motisher, Charles S.) と結婚し、ニューヨークに転居した。

(6) エミリオ・ヴァン・ドルン・ミラー

エミリオ・ヴァン・ドルン・ミラー (Miller, Emily Van Dorn) は、1888年7月8日ミシシッピ州ジャクソンで生まれ、ニューカム大学 (1907年卒業)、1912年ニューヨーク州図書館学校で資格を取得し、ミネアポリス公立図書館ウォーカー分館の児童図書館員 (1911年-1914年)、アラバマ州バーミングハム公立図書館のレファレンス図書館員 (1914年-1920年)、公衆衛生・退役軍人機関の図書館員

(1920年-1923年),『ブックリスト』誌編集部
(1923年-1927年),アメリカ図書館協会出版部門
(1924年-1935年),バーミングハム公立図書館館
長(1947-1953年)などを務めた。また,イリノイ
図書館協会会長(1931年-1932年)も務めた。

(7) ファニー・キャッスルマン・ローソン
ファニー・キャッスルマン・ローソン (Rawson,
Fannie Castleman) は, 1865年5月30日ケンタッ
キー州ルイビルで生まれ, 1901年女性クラブ幹部
として東ケンタッキーの巡回文庫導入に尽力する。
その後, ニューヨーク州図書館学校(1912年)で
学ぶ。また, ケンタッキー図書館委員会委員長
(1910年-1911年), 同委員会事務局長(1911年
-1930年)を務めた。この間, ケンタッキー図書館
協会会長(1925年-1926年)なども務めた。

(8) メアリー・ユートピア・ロスロック
メアリー・ユートピア・ロスロック (Rothrock,
Mary Utopia) は, 1890年9月19日テネシー州ト
レントンで生まれ, ヴァンダービルト大学卒業
(1911年学士号, 1912年修士号), ニューヨーク
州図書館学校で資格取得(1914年), ニューヨー
ク州立図書館アシスタント(1913年-1914年), テ
ネシー州メンフィスのコジット図書館アシスタ
ント(1913年), 貸し出し部門主任(1914年-1916年),
同州ノックスビルのローソン・マクギー図書館長
(1916年-1934年), テネシー川流域開発公社
(TVA) 図書館サービス顧問(1934年-1948年),
ノックスカウンティ図書館長(1949年-1955年)
を務めた。この間, テネシー図書館協会会長(1919
年-1920年, 1922年-1924年, 1927年-1928年),
南東部図書館協会会長(1922年-1924年)も務めた。

(9) メイ・ウッド・ウィギントン
メイ・ウッド・ウィギントン (Wigginton, May
Wood) は, 1886年5月10日にケンタッキー州フ
ェアフィールドに生まれ, ルイビル大学(1908年
-1912年), ニューヨーク州図書館学校で資格取得
(1914年)する。ルイビル公立図書館の目録係ア
シスタント(1904年-1912年), 目録係主任(1912
年-1920年), デンバー公立図書館発注部門主任
(1920年-1934年), アシスタント図書館員(1934
年-1951年)などを務めた。この間, コロラド図書
館協会会長(1931年-1932年, 1949年)なども務
めた。

(10) フローレンス・ウィルキー (Wilkie, Florence)
フローレンス・ウィルキーは, 1884年10月31
日バージニア州ゴードンズビルで生まれ, ケンタ
ッキー農科・商工大学を卒業(1906年), ニュー
ヨーク州図書館学校で資格取得(1916年)の後,
ワシントン D.C.の鉱務局の図書館アシスタント
(1915年-1917年), 図書館員(1917年-1920年),
イエール大学図書館員(1921年-1922年), シカゴ
公立図書館目録係(1923年-1924年), ノースカロ
ライナ州シャーロット高等学校図書館(1925年
-1927年), オクラホマ州マスコギー公立図書館目
録主任(1927年-1929年), テネシー種師範学校図
書館員(1929年-1931年)などを務めた。

(11) ルース・ブラウン
ルース・ブラウン (Brown, Ruth) は, テネシー
州ニューポート出身で, コロンビア大学卒業(1912
年), ニューヨーク州図書館学校で資格取得(1918
年)の後, オハイオ州立大学図書館目録係(1919
年)ケンタッキー図書館委員会アシスタント(1919
年-1920年), 全米運輸委員会図書館アシスタント
(1920年-1921年), 陸軍士官学校図書館第1アシ
スタント(1921年-1922年), ニューヨーク公共図
書館標本部門アシスタント(1923年-1924年), ニュー
ヨーク法律事務所の法立図書館員(1924年-1927
年), ケンタッキー大学図書館目録主任(1927年
-1929年), フィリップ・アカデミー図書館目録主
任(1930年-1935年), などを務めた。

(12) パール・ヒンズリー
パール・ヒンズリー (Hinesley, Pearl) は, ケン
タッキー州ルイビル出身で, ケンタッキー州立大
学卒業(1909年), ニューヨーク州図書館学校で
資格取得(1919年)の後, デュポンの図書館目録
主任(1919年-1920年), 図書館長(1920年-1921
年), バージニア州ロアノーク公立図書館レファ
レンス図書館員(1921年), アシスタント図書館員
(1922年), 図書館長(1923年-1951年)などを務
めた。

(13) ベノーニエ・ミューズ
ベノーニエ・ミューズ (Muse, Benonine) は, テ
キサス州シャーマン出身でテキサス大学卒業
(1914年), テキサス大学図書館アシスタント
(1914年-1918年, 1920年-1921年)となり, この

間にニューヨーク州図書館学校で資格取得（1920年）する。また、農務省図書館アシスタント（1918年）、ニュージャージー州トレントン公立図書館アシスタント（1919年）、ニューヨーク州図書館アシスタント（1919年-1920年）テキサス州ローゼンバーグ図書館貸し出し・レファレンス部門主任（1920年）などを務めた。1921年死亡。

(14) エレン・アーミステッド・ジョンソン

エレン・アーミステッド・ジョンソン (Johnson, Ellen Armistead) は、1893年11月28日にテネシー州ノックスビルで生まれ、テネシー大学卒業（1917年）、テネシー大学図書館学夏季講座受講（1918年）、ニューヨーク州図書館学校で資格を取得（1921年）の後、アトランタ・カーネギー図書館児童部門主任兼同館附属図書館学校児童サービス講師（1921年-1922年）などを務めた。1922年結婚した。

(15) ジョージア・ヒックス・ファイソン

ジョージア・ヒックス・ファイソン (Faison, Georgia Hicks) は、1891年2月13日にノースカロライナ州サンプソン・クリントンで生まれ、ノースカロライナ女子大学卒業（1911年）、プラットインスティテュート図書館学校（1920年）、ニューヨーク州図書館学校（1924年）で資格を取得する。ランドルフ・メイコン女子大学図書館員（1921年-1923年）、ノースカロライナ大学図書館貸し出し部門主任（1924年-1928年）、レファレンス図書館員（1928年-1957年）、ノースカロライナ州立図書館レファレンス部門主任（1957年）などを務めた。

(16) エドナ・J・グローマン

エドナ・J・グローマン (Grauman, Edna J.) は、ケンタッキー州ルイビル生まれで、ルイビル大学卒業（1923年）、ルイビル公立図書館訓練コース（1910年）、ミシガン夏季講座（1917年）、ウィスコンシン夏季講座（1918年）、コロンビア大学夏季講座（1921年）を経て、ニューヨーク州図書館で資格取得（1925年）をする。

ルイビル公立図書館レファレンス部門主任兼訓練コース講師（1925年-1957年）を務めた。この間、ケンタッキー図書館協会会長（1940年-1941年）、ルイビル図書館クラブ会長（1945年-1946年）なども務めた。

(17) イレーネ・R・ジョンストン

イレーネ・R・ジョンストン (Johnston, Irene R.) は、テネシー州メンフィス出身で、ワシントン大学卒業（1924年）、ニューヨーク州図書館学校で資格取得（1926年）の後、テネシー州ノックスビルのローソンマクギー図書館アシスタント（1925年）、発注部門主任（1925年-1926年）、目録部門兼発注部門主任（1926年-1933年）、ノックスカウンティ図書館技術顧問（1950年）などを務めた。

(18) エレン・V・バトラー

エレン・V・バトラー (Butler, Ellen V.) は、1902年5月18日にケンタッキー州レキシントン生まれで、ケンタッキー大学卒業（1925年）、ニューヨーク州図書館学校で資格取得（1927年）の後、ケンタッキー図書館委員会事務局長補（1926年-1928年）、ケンタッキー大学図書館アシスタント目録係（1928年-1932年）、目録主任（1932年）などを務めた。

(19) マーガレット・H・ジョンソン

マーガレット・H・ジョンソン (Johnson, Margaret H.) は、テネシー州ノックスビル出身で、テネシー大学卒業（1924年）、ニューヨーク州図書館学校で資格取得（1927年）、フロリダ大学図書館貸し出し部門主任（1926年-1930年）、テネシー州ノックスビルのローソンマクギー図書館非常勤職員（1933年-1954年）などを務めた。

(20) ルーシー・リー・ランカスター

ルーシー・リー・ランカスター (Lancaster, Lucy Lee) は、1905年6月28日バージニア州ブラックスバーグで生まれ、バージニア工科大学卒業（1925年）、ニューヨーク州図書館学校で資格取得（1927年）する。バージニア工科大学図書館アシスタント（1925年、1926年）、アシスタント図書館員（1926年-1928年）、準図書館員（1928年）などを務めた。

(21) ルィーズ・W・ヴァンス

ルィーズ・W・ヴァンス (Vance, Louise W) は、テネシー州ノックスビル出身で、テネシー大学卒業（1925年）、ローソンマクギー図書館初任者研修受講（1925年）、ニューヨーク州図書館学校で資格取得（1927年）する。バージニア州ロアノーク公立図書館レファレンス図書館員（1926年）などを務めた。

5. まとめと今後の課題

ドレクセル図書館学校とニューヨーク州図書館学校出身の一般女性図書館員のキャリア形成を分析すると以下3点の特徴がみられた。

1点目は、図書館学校に入学した女性に大学卒業者が目立つことである。これは、大学卒業後にさらなるキャリア形成のために、図書館学校に入学したことが示唆される。

2点目は、図書館学校で学んだ後にアシスタントや非常勤として、図書館の仕事に就く者が多く見られ、短期間に職場を次々と異動していく傾向が目立つことである。これは、実務的なスキルを身につけるためと考えられる。一定程度の短期的な職場の変化を経たのちは、一般女性図書館員となっていることが多い。それは、正規的な図書館員や主任として、一つの図書館で長く働く傾向がみられることから裏付けられる。そして、その後は一部の一般女性図書館員が、館長などの指導的図書館員とキャリアアップしていくことが確認された。

3点目は、数は少ないながらも、結婚により図書館員としてのキャリアを中断する者が存在したことである。その一方で、非常勤職員としてキャリアを継続した者もいた。

前述の頻繁に職場を異動する点やキャリアの中断などの状況は、日本の一般女性図書館員のキャリア形成に通じるところがあると考えられる。

今回の研究成果を踏まえて、今後は、日本における女性図書館員のキャリア形成モデルの構築を進めていきたいと考えている。

6. この助成による発表等

①発表

[1]中山愛理「アメリカにおけるマイノリティと図書館」図書館学方法論研究会、2015年12月6日、明治大学（東京都・千代田区）

②図書

[1]中山愛理編「報サービス演習」ミネルヴァ書房、2016年（印刷中）

（2016年3月31日現在）